

各種地図調整・印刷／地理情報システム
立体地図・地図模型・地図パネル・地図掛け軸
オンデマンドデジタル印刷・大判ポスター出力



株式会社 **アルプス出版**

〒461-0004 名古屋市東区葵一丁目15番18号
オフィスサナゴヤ 6F

TEL 052-931-1009 FAX 052-932-1312
http://www.alpspublishing.co.jp/

企画・制作：株式会社 新聞ビル

あかしん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』就職 —自分ドラマつくろう— (118) 岡田 清 治



■プロフィール

著者：岡田 清 治 (おかだ・せいじ)

1942年生まれ ジャーナリスト(編集プロダクション・NET108代表)

著書に『高野山開創千二百年 いっぱいさん行状記』『心の遺言』

『あなたは社員の全能力を引き出せますか』『リヨンで見た虹』など多数

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を下記のFAXかメールでお寄せください。
今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」「インド」「愛知県」についてです。物語が進行する中で織り込む
ことを試み、一緒に考えます。
F A X: 0569-34-7971 メール: takamitsu@akai-shinbunten.net



【写真】銀行にも朝日が輝くか(著者撮影)

姪の就職2

当時、旧制中学校三年の元には、念書の意味がよく解
らなかつた。両親の死後、元は叔父の原に引き取られた。
原三郎は柳原文太郎の弟で室町の繊維問屋である原家
の長女の入り婿となつてた。元を引き取つて間もなく、
不渡り手形をつかまれ倒産してしまつた。原家から追
い出される形で離婚、やがて原会計事務所の看板を掲
げて中小企業の経営者を相手に相談に乗りながらお待
意先を開拓していった。そのような状況では元を大学に
やらせることもできず、高校を卒業したら就職をするよ
うにすすめた。

「叔父さん、これどう思います」

ある日曜日の昼下がり、元は母親から預かつた念書と
株式三千株を叔父の原三郎に見せた。

「どうだつたのか。俺もおかしいと思つていたんだ。兄貴
の文太郎が社長になるようなことを言つていたんで、そ
れが退院したらタタのひとなつていゝというだろう。生
前、兄貴に聞いたんだが黙つてゐるものだから…。元
に念書をみせてもつて解つたよ」

「どうしたらいいと思われませんか」

「いまさらどうすることもできないだろうな。あの専務
も亡くなつたし…」

「ところで就職のことなんですが…」

「就職か…。そうだ、元お前、山城昭和産業相互銀行に
入れ。そして親父の仇をとり」

「仇をとれといったつて、会社に入ればそんなことできな
くなるよ」

「もちろん、すぐにはできない。チャンスを待つのだ。そう
だな、十年計画でやろう。叔父さんにまかせておけ。いい
考えがある。それから君の名義になつてゐる山城昭和産
業相互銀行の株式を叔父さんに譲つてくれないか。もち
ろん額面以上で買うから…」

「今日までお世話になつたのですから叔父さんにお礼に
差し上げますよ」

あれから十五年の歳月が流れた。行名も「山城相互銀
行」に変わった。元は総務課長に昇進してゐた。行内の誰
一人として元があの柳原文太郎の息子だとは知らなかつ
たし、聞く者もいなかった。

「そつか、三十人になつたか。よくやつた。決行しても大丈
夫だ。最近、浪華相銀から来た役員二人以外は、植田社
長につくものはいない。明日、植田社長は一日中、会社
にゐる。とくに会議も来客の予定もない」

柳原は自宅からA課長に電話した。

翌日、会社側に労働組合として認めさせる交渉に入
る。もう秘密にしておく必要はない。

社長の伝次郎はこの動きを聞いて烈火のごとく怒つ
た。京都の蛭川虎三知事の革新府政が猛威を振つてゐ
た時代である。共産党の地盤が強く、どの企業でも蛭川
知事の動静を探り恐れていた。しかし、山城相互銀行の
場合、外からの働きかけでなく、純粹に内部からの労働
組合が自然発生的に誕生しようとしてゐた。A課長は
神原を同志の一人だと信じてゐた。

この時点で伝次郎が労働組合と話し合う用意をして
いたら、状況は変わつてゐたかもしれない。伝次郎は緊急

役員会の席上で叫んだ。

「当行に必要なのは労働組合ではなく、有能な営業マン
です」

伝次郎の命令は労働組合潰しの拳に出ることであつ
た。管理職というエサを武器に、労働組合の切り崩しを
推し進めた。労働組合を辞めたら管理職のポストを保
証するという甘い誘いで残つてほしい行員から順に声を
かけていく。

伝次郎の状況判断は全く誤つてゐた。わずかな管理職
手当のエサに飛びつく行員や労働組合は皆無であつた。そ
こまで行員の内面は荒廃しておらず、逆に会社側の汚い
手口を知つたサイレント・マジョリティーといわれる中間
層が、親睦会を辞めて労働組合に流れ込んできた。もは
や流れを変えることは不可能になる。残つてゐた行員の
ほぼ全員が数日後、労働組合に結集した。

伝次郎はの機になつても行員の本心を見抜けず、読
み違へてゐる。

労働組合は会社側に団体交渉を申し入れるが、会社
側は突つたばね。ついに労働組合はスト権投票を実施、
九〇％という高率でスト権を確立。夏のボーナス預金獲
得運動の日が迫つてゐる六月の初め、本店屋上に赤旗が
立つた。ストライキ突入である。銀行という業種はとりわ
け信用を重んじるためか、過度と思えるほど世間体を気
にする。そんなものだから、銀行の本店屋上に赤旗が並
び立つたことを知つて、会社側の首脳陣は腰を抜かさ
んばかりに驚いた。役員の間では労働組合と話し合つた
方がよいのではないかとという意見も出たが、社長の伝次
郎は断固、闘つと声明した。

「ええ人物を紹介してもらつた。労働組合紛争を解決し
たベテランだ」と話した

数日後、伝次郎の前に原三郎と名乗る男が現れた。髪
をオールバックにした色白の顔で、小太りの風貌であつ
た。眼つきだけは獲物を捕らえるように鋭い。英国製の
背広をきちんと着こなしてゐる。伝次郎は一瞬どこかで
見覚えのある顔だと感じた。

「原です。相対、お困りの様子ですね」

原は細い低い声で伝次郎の目を見ながらゆくりりし
やる。

さすがに伝次郎の趣味は絵かきであつた。原の顔を見
て誰だつたのかを思い出そうとしてゐた。原と神原元の
顔が重なるまではいかなない。

「すぐに解決してあげますよ。どうです。そうしたら、私
を顧問で雇つてくれませんか」

「それあ、解決してゐたのなら、原さんの意向に添へな
らんとするております」

翌朝、原は暴力団風の男三人を引き連れて屋上に上
がつた。朝が早いので、労働組合一人が、赤旗のポールの
傍で朝刊を広げて眠そふな顔つきで読んでゐた。原は
連れの三人に赤旗の撤去を命じた。驚いたその労働組合
（何するねん）と赤旗のポールの前に立ちどまつた。次
の瞬間、一人の男に蹴飛ばされた。足を引きずりながら、
労働組合は階段を急いで降りた。ようやく玄関のところで
出勤してきた委員長Bに事情を説明をした。数人の労
組員と屋上に戻つたときには、赤旗と四人の姿は消えて
いた。

すぐ、その足で三階の社長室に押し掛けた。社長室の
壁際に屋上にあつた赤旗を立てかけてあつた。その前のソ
ファに社長の伝次郎と原が座つて談笑してゐた。

「社長、これはどういふことなんですか」

「どういふことつてこちらの原さんは会計事務所の経
営者で近いうちに当行の顧問に就いてもらおうと思つて
ゐる方です」

「なんですつて。顧問がどうして労働組合の旗を勝手に
持ち去るのですか。不当労働行為で訴えますよ」

「どうぞ訴えなさいよ。それより君たちは銀行という
ところをどこだと思つてゐるんだ。人様のお金をお金
かるところが、屋上に赤旗を立てると、どうなるかわか
つてゐるのか。預金者は来たくとも来れなくなる。だから
社長に頼まれたので赤旗を降ろしただけだよ。文句があ
るのか」

原の声は細いがよく通る。それでも凄みを感じさせ伝
次郎には頼もしく映る。戦前は室町地区の繊維問屋の
経営者だつたと聞いてゐた。そういえばどことなく気品
が漂つてゐるよつと思つた。年齢は六十歳に近かつたが、
見かけは若く見える。

「我々は労働者の当然の権利を行使してゐるんです」

「わかつた。それじゃ、何が不満なのか聞こうじゃないか」

「社長室で団体交渉が始まつた。会社側は顧問になつて
いふ会計事務所の原と社長の植田伝次郎一人である。

「行員の生活がいつに改善されず、限界にきていま
す」

「それは業績が悪いから、どうすることもできないとい
つてゐるじゃないか」

横から社長の伝次郎が口をはさむ。

「その原因は経営の無策からきてゐるんですよ」

「ほう。経営者が無能というわけか。具体的にどういふ
ことなんだ」

「原さん、労働組合に加担してもらつては困りますよ」

伝次郎は風向きが変わるのを心配して原に苦言を呈
する。

「顧問としては、一応労働組合の言い分も聞いておかない
ことは、対策が立てられませんか」

原は自分が社長になつたかのような態度をみせる。

委員長Bは支店の配置政策が失敗であつたことを
強調した。さらに続ける。

「商品政策についても他行では積立預金を略して
積金。毎月一定額、満期まで積み立てる。一年満期の積金
が多いをやつてゐるのに、当行は旧態依然のままだし、
大企業の手形割引もやつてゐない。無尽貸付ばかりやつ
てゐるんです」

「わかつた。こは僕の顔に免じて引き取つてほしい。少し
時間をかけて話し合おうじゃないか」

原の口車に乗せられ、押し切られたかつこうになつた。
この光景を見てゐた管理職の何人かは、その日の夕方、
原を自宅に訪問してゐる。

「原さん、なんでも協力しますよ」

早くもゴマスリ管理職が現れた。サラリーマンの嗅覚
は鋭い。機を見るや敏感に動く人種がどこの企業にも
ゐる。山城相銀の権力構造の変化を敏感に嗅ぎ取つて
ゐる。

私の出会った作品 (56) 杉本武之

◎梶井基次郎について
日本文学で一番好きな作家は梶井基次郎です。夏目漱石や森鴎外よりも、宮沢賢治や新美南吉よりも、司馬遼太郎や藤沢周平よりも好きです。

梶井基次郎は数多くの

文学者から敬愛されてきました。20篇ほどの小品を発表して、31歳の若さで亡くなった作家が多くの人たちから温かく讃えられてきたのです。

「一番いい酒は喉を通る時に水みたいだと言いますが、それに近い文章という印象を受ける」(吉行淳之介)

「闇の暗さや、空気の厚みのある手ごたえを、あんなに的確に表現し、定着した人はいないだろう」(安岡章太郎)

「感覚と思索をもとに深く鋭く研ぎ澄まして冴えた澄明な世界を私たちにもたらした私たちの最高の

代表(埴谷雄高)

「清澄鋭敏、まれにみる作家資質と私は感服した」(小林秀雄)

「『交尾』を読んで、私は生易しい姿ではないと思った。脱帽したい気持ちであった」(井伏鱒二)

「梶井という人の作品には徳があつて、自分が世間から最も遠いところにいると考えると悲観しているような者にとつてこれほど心に近く、無言の鼓舞を与えてくれる作家はいない」(庄野潤三)

梶井基次郎は、明治34年(1901)2月17日に大阪市で生まれた。父・宗太郎、母・ひさの次男。海運会社勤務していた父の宗太郎は、酒飲みで、家の外に女を作る遊蕩の人だった。基次郎が生まれた同じ年の9月には異母弟の順三が生まれている。保母をしていた母は、家族の行く末を



『梶井基次郎』

案じて自殺を考え、しばしば子供たちを連れて、近くの橋の上にたつた。幼児期から彼の心を暗くしてきた父の行状に対して、中学生の基次郎は、敢然として抗議の行動に出た。

した。同じ父の子なのに、自分は中学生、弟は丁稚という差別に我慢できなかったのだ。基次郎は1年間メリヤスと毛布の間屋で丁稚奉公をした。その後、母の強い勧めに従って北野中学に復

北野中学(現北野高校)を中退して丁稚になる決意を表明した。同じ家に暮らしていた異母弟の順三が北浜の株屋へ丁稚奉公に出されることを知ると、基次郎は自分も丁稚になると言い出

学した。中学卒業後、兄が通っていた大阪高等工業学校を受験して失敗。しかし、その後受けた京都の第三高等学校には合格した。1年と3年の時に落第し、5年後

昭和6年5月、創作集

『冬の蠅』
梶井基次郎は小説らしい小説を書きませんでした。学生時代に東京で梶井と同じ下宿で生活したことがある小説家・評論家の伊藤整は、梶井文学の特徴をこう述べています。

「谷間の温泉宿の二室。私は窓を開けて日光浴をやり始めた。10時頃、半裸体を日に晒していると、彼等

『檸檬』を刊行。彼の才能は文壇の一部から認められ、『中央公論』から執筆依頼の手紙が来た。昭和7年1月、『中央公論』新年号に『のきな患者』を発表。3月に入ると病状が急変した。3月23日、苦しい、苦しいと訴える基次郎に、母のひさは「あなたもまんざら平凡な人ではないのだから、もういい加減に覚悟しなさい」と諭した。彼は「分

に、人間の実在の秘密があるのを感じて、その微細な一点をできるだけ正確に描こうとした」
湯ヶ島温泉で療養していた時に書かれた『冬の蠅』を紹介しよう。

「冬の蠅とは何か？よばよばと歩いている蠅。指を近づけても逃げない蠅。そして飛べないかと思つていると、やはり飛び蠅。彼等は一体何処で夏頃の不逞さや憎々しいほどのすばしこさを失つて来るのだろうか。色は不鮮明に黒ずんで、翅体は萎縮している。汚い臍物で張り切つていた腹は、紙縋のように痩せ細つている。そんな彼等が我々の気も付かないような夜具の上などを、いじけ衰えた姿で俯つているのである。

冬から早春にかけて、人は一度ならずそんな蠅を見にちがいない。それが冬の蠅である。私はいま、この冬の私の部屋に棲んでいた彼等から一篇の小説を書くことにしている。」

が天井からやつて来る。日なたの中へ下りて来ると急に活気づく。彼等は日光の中で交尾をさえる。毎日、2匹ほどの蠅が牛乳ビンの中に入る。なんとか出ようとするが、どうしても途中で落下してしまふ。私が「もう落ちる時分だ」と思う頃に、蠅も「ああ、もう落ちそうだな」という風に落ちてしまふ。

午後になると私は読書をする。彼等がやつて来る。本にまつわりつく。逃げ足が遅く、私がめくるページの間挟み込まれて、仰向けになつてもがいている。夜、私が寢床に入ると、彼等はみな天井に貼り付いている。じつと死んだように貼り付いている。眠れない時、私は先ず軍艦の進水式を思い浮かべる。続いて小倉百人一首を一首ずつ思い出しては、その意味を考える。最後に最も残酷な自殺の方法を空想する。

ある晴れた温かい日、私は村の郵便局へ手紙を出しに行った。疲れていた。そこへ一台の乗合自動車が出来た。不意に手を挙げて、乗り込んでしまった。私は人里離れた山の中で車を止めた。私は山道を歩き出した。3里先の温泉に行くことにした。寒い闇に包まれ、私は暗い情熱に溢れて山道を歩き続けた。「歩け、歩け、へたばるまで歩け」

温泉に着いて、共同湯に入った。食事を取ると、私はまた夜の道へ出た。港の町に着いた。そこに3日滞在して村に戻つた。

気が付いてみると、私の部屋に一匹も蠅がいなくなつてた。私が鬱屈した部屋から逃げ出していた間に、彼等は寒気と飢えで死んでしまつたのだ。私は彼等の死にしばらく憂鬱を感じた。ますます陰鬱を加えて行く私の生活を感じたのだ。

この指とまれ (299) 氏原朝信

昭和55年度常滑小学校二年二組どろんこ

子どもたちが学級で楽しく、遊んだり学んだりできるように、個から多を中心にした「班活動」を取り入れた学級経営を行いました。低学年では、そのまま放っておけば一人遊びや好きな子同士の遊びになってしまいがちです。そこで係、日直、給食当番、掃除などを班員で行うようにしました。子どもたちは知恵や意見を出し合い、時にはけんかをしながら、班活動を行ってきました。

この班日記も、班や学級で班員がどんなことを行い、何を考えているのかを書き、回し読みし、子どもの生活を保護者の方にも知ってもらうために試みたのでした。



H・考子⑤

7月8日(火) S・理代⑦
5時間目に一学級の反省をしました。言ったことは「ほんの人がたまにしかられるから、しかられないようにします」です。みんなやるかなとおもいました。

7月15日(火) A・純子③
はん集会があつてけいこさんとわかこさん私と遊ぶときじゃけんをしただけですぐにチャイムがなりました。遊ぶなくてやだなと思いました。

へやの中ではすぐく楽しかったです。

7月10日(木) W・達也①
たんじょう会をやつて7、8月の人がかくびかざりをもつたからぼくは手をたたいてあげました。そしてぼくもくびかざりがほしくなりました。

7月10日(木) T・重夫④
ぼくたちはけいこさんので、帰るとき、絵をはつていそがしかったです。それ、たかひろくんのが

7月10日(木) I・伸一郎⑦
みんなとたんじょう会をしました。歌うとき、どきどきしていました。ジャンケン大会をしたのでおもしろかったです。



長澤晶子のSPEED★COOKING!

ハカリいらず! ガトーショコラ

お手軽につくるチョコスイーツです♡

【Φ15～16cm ケーキ型一台分】

④ 板チョコ……………一枚50g×2枚(細かく刻んでおく)

⑤ 卵……………3個(常温に戻しておく)

⑥ 薄力粉……………大さじ1

●オーブンを200℃で予熱

●使用するボール、ハンドミキサーはしっかり洗い水分をふきとる(油分、汚れがあると卵白の泡立ちが悪くなるため)

●ケーキ型の底面と側面にコピー用紙やオーブンシートを敷いておく

① ④をボールに入れ、熱い湯に浮かべて湯煎にかけ溶かす(湯が入らないよう注意)。

② ⑤を卵黄と卵白に分ける。

③ ①の中に卵黄を入れよく混ぜる。

④ ②の卵白をハンドミキサー高速回転でボールを斜めに傾けてもすべり落ちないくらいまでしっかり泡立てる。

⑤ ③に④の1/3を入れ、しっかり混ぜる。

⑥ さらに、⑤に残りの卵白1/2を入れ混ぜ、⑥を茶こしでふるいながらさっくり混ぜ合わせる。

⑦ ⑥に残りの卵白を入れさっくり混ぜ合わせる。

⑧ オーブン200℃で15～18分焼く。こげないように注意する。

⑨ 焼き上ったら台にトントンと底面にショックを与え焼き縮みを防ぐ。

⑩ 冷めたら型から取り出し、紙をはがして切り分ける。

⑪ お好みで粉砂糖や生クリームをそえていただきます♪



常滑市民文化会館ホール

▼「泣きたい私は猫をかぶる」窪田ミナ ピアノコンサート・十二日(火・祝)

開場 午後四時 開演 同四時半 終演 同六時半

入場無料 問合せ 常滑市観光協会 ☎34-8888

展示室

あなたのギヤラリー

▼常滑市小中学校書写作品展・二日(火) 午前九時～午後五時半(最終日同三時まで) 第一展示室 問合せ 常滑市立三和小学校 ☎42-0749

▼常滑市小中学校特別支援学級文化展(かがやき展)・二日(火) 午前九時～午後五時半(最終日同三時まで)

で 第2展示室 問合せ 常滑市立南陵中学校 ☎35-4005

▼愛知県立常滑高等学校セラミックアーツ科卒業制作展・十一日(木・祝)～十四日(日) 十一日(木・祝)午前九時～午後五時 十二日(金)午前九時～午後七時 十三日(土)午前九時～午後五時 十四日(日)午前九時～午後三時 第一・二展示室 問合せ 愛知県立常滑高等学校セラミックアーツ科 ☎43-1151

▼統計グラフコンクールパネル展示・十七日(水)～二十五日(木) 午前九時～午後九時(初日正午～) 最終日午後四時まで) あなたのギヤラリー 問合せ 市役所企画課 ☎47-6111

▼常滑地区伝統文化 いけ

ばな親子教室・二十日(土) 午前九時半～同十一時

第一展示室 問合せ 常滑地区伝統文化 いけばな親子教室 ☎52-3211

8985(伊藤)

◎常滑市立図書館

▼海州鬼会展(書)・二日(火)

▼神明書道会展書・十七日(水)～二十八日(日)

◎とこなめ陶の森資料館

▼リニューアルのため休館(二〇二二年秋まで)

◎とこなめ陶の森陶芸研究所

▼常設展「焼き物で辿る常滑の歴史」午前九時～午後五時 無料

◎常滑市体育館

▼愛知県中学生学年別卓球大会・十一日(木・祝)

▼全知多ダブルス卓球大会・十四日(日)

少人数での家族葬専用ホール

大阪屋リビング 常滑

誠意を込めて安心のお手伝い

大阪屋葬祭

常滑ホール 鬼崎ホール 阿久比ホール

TEL0569-35-4949

●わーくわーく知多協力店 ●自治労常滑市職員労働組合協力店

大阪屋葬祭 | 検索

知多の新鮮たまご 発酵ケイフン

(有)知多エッグ

知多郡武豊二ツ峯380 TEL0569-73-6341

わが家のニューフェイス



麻生采那(3ヶ月) 瑛仁(5才) 岡崎市

写真・文	よ	る	を	つ	以	つ	兄		兄	ど	私	
	ろ	お	呼	か	来	こ	ち		ら	き	に	
	し	兄	ん	っ	お	し	ゃ		ゃ	お	は	
	く	ち	で	て	兄	て	ん		ん	ち	優	
	ね	や	伝	る	ち	く	は		が	や	し	
麻生明奈		ん	え	私	の	れ	朝		抱	と	必	
			て	に	抱	る	起		っ	ず	私	
		こ	く	り	の	お	き		こ	で	を	
		れ	る	マ	と	風	ら		湯	ビ	抱	
		か	ら	マ	す	呂	け		船	ユ		
		も	頼	や	ぐ	に	を		に			
		す	に	あ	ば		抱					
		と	は	ば								

愛とMy Family



戸松日向大(2才) 果那(5才) 春日井市

写真・文	ぬ	ら	し	か	人	け	ち	え		は	で	つ	ぼ
	。	た	て	ら	で	ど	ゃ	ち		パ	す	ひ	く
		く	大	も	行	大	ん	ん		と	ぼ	な	の
		さん	き	4	く	好	と	の		マ	く	た	な
		キ	な	人	で	き	は	4		マ	の	す	ま
戸松伸希		ッ	た	仲	が	す	い	人		と	お	2	と
		チ	良	大	お	休	つ	家		ね	家	才	ま
		ボ	く	好	休	み	も	族		お	に		
		ー	し	き	の	カ	ケ	で		ね			
		ル	よ	で	日	し	ン	す					
		し	や	う	こ	に	る	お					
		よう	る	か	れ	4	る	ね					
				そ									

1886年創業。地域とともに130年。



クリエイティブ



デジタル



空間



印刷



マーケティング



経営コンサル

半田中央印刷のトータルソリューション

印刷の枠を越え、総合的な「価値」をご提供します。

総合印刷物 (PR・SP・IR) の企画・プランニング・デザイン・印刷・加工
CI・VI・WEBコンテンツ・動画コンテンツ・撮影・イラストレーション・デジタルアーカイブ等の企画・制作

PTC.GROUP
半田中央印刷株式会社
〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地の21
TEL 0569-29-2525 (代) FAX 0569-29-4500
http://www.handa-cp.co.jp

グループ会社
●プリ・テック株式会社
●プリテックメディア株式会社
●トーヨー印刷株式会社
●株式会社スタジオハル

知多四国めぐりの
お供にどうぞ
納経帳をはじめ、弘法
参りの関連書籍を販売
しています。お電話にて
お問い合わせください。

CENTRAIR HOTEL

知多の恵みたっぷり

「知多ぼっくす」付き
日帰りプラン

地元・知多半島の食材をふんだんに取り入れたランチボックスが付いた日帰りプランです。
滑走路を眺める高層階の客室でお食事しながら優雅なひとときをお過ごしください。
外出に不安を感じる方でも安心。コロナウイルス感染防止対策を徹底した安全な客室です。
小さいお子様連れでも周りを気にせず、お過ごしいただけます。
近場でお出かけ♪この機会にセントレアホテルでのご滞在をお楽しみください。

ご利用時間

・午前 11 時～午後 7 時 (最大 8 時間滞在)

お部屋タイプ

・パシフィックサイド 8 階又は 9 階
スタンダードダブルルーム又はスーペリアツインルーム 全室禁煙
※客室からの眺めは客室の位置で異なります

料金

・スタンダードダブル 1 名様利用 7,700 円 / 2 名様 9,900 円
・スーペリアツイン 1 名様利用 9,350 円 / 2 名様 11,550 円
3 名様以上 別途 2,200 円 (1 名あたり)
※ 1 部屋あたり定員 4 名様

その他

・予約制 1 日 10 名様限定
・お食事でアレルギーをお持ちの方は事前にお知らせください
・ご希望の方には「知多ハイボール」800 円にてご提供します



【知多の恵みたっぷりランチボックス 知多ぼっくす】
地元の食材にこだわった当ホテル料理長の自信作です！

- ・知多半島ビーツと人参のラベ
- ・美浜の塩を使った知多三元豚ロースハム
- ・日間賀島産たこ師崎産釜揚げしらすのマリネ
- ・知多のあかもく入りはんぺいと炊き野菜
- ・常滑寿園の緑茶で煮立てた知多牛の冷しゃぶ
- ・知多半島産「れんげ米」おにぎり & 知多海苔
- ・常滑牛乳のなめらかプリン

※写真はイメージです ※料理内容は変更になる場合があります ※表示料金は税金が含まれています

中部国際空港 セントレアホテル

詳細はホームページをご確認ください
セントレアホテル 検索

出発ロビーへ2分「中部国際空港駅」改札正面
愛知県常滑市セントレア1-1 / TEL.0569-38-1111 (代)